

令和8年度 第1回 学校運営協議会 記録

令和8年5月19日(火) 10:00～12:00

場所：ミーティングルーム 記録：水野

1、開会

2、任命状伝達

3、委員長の決定 福田 和男 様(門池地区連合会自治会長)

4、校長(若杉 友美)挨拶

今年度、本校、伊豆分校、あしたか分校の校長に着任いたしました。東部地区での勤務は初めてであり、まずは地域を回り、情報をゼロベースから学ぶことが自身の課題です。過去の資料を拝見し、地域に大変大切にされている学校だと感じております。地域の皆様、そして委員の皆様のお知恵を拝借し、子供たちの力につなげていけるよう、忌憚のないご意見をいただきたいです、

5、自己紹介

・福田 和男様(門池地区連合会自治会長)

あしたか分校の学習に基づき、地域と共に子供たちの未来を作っていくことを楽しみにしています。形だけの会にするのではなく、愛鷹分校らしく着実に進めていくことを期待しています。

・鈴木 隆臣様(株式会社駿東ドリームビレッジ取締役)

障害福祉サービス事業を運営しており、今年で20周年を迎えます。あしたか分校の開校準備から4年間関わった経験があり、非常に思い出が強いです。「この学校に育てていただいたと言っても過言ではありません。素晴らしい学校にしていきたいです。

・駒形 英史 様(株式会社秋山機器 管理部部長)

昨年に引き続きの参加。「専門家ではない第三者、いわゆる『素人』の視点から、障害のある方への対応などについて意見を出していければと思います

・越前 徹 様(株式会社イーリード 代表取締役)

物流業を本業としつつ、県からの委託で20年以上障害者向けの職業訓練を行っています。「企業として受け入れる立場と、訓練を通じて送り出す立場の両方の気持ちがわかります。学校経営への協力だけでなく、自身の学びの場としても大切にしていきたいです。

・安倍 育枝 様(PTA 副会長)

今年度よりPTA副会長として参加。1年間、よろしくお願いいたします。

・神田 光紀 教頭

前任者からこの協議会にかけける熱い思いを引き継ぎました。過去の記録を読むと、これほど意見が飛び交う会はないと感じ、プレッシャーと同時にやりがいを感じています。魅力ある学校づくりに邁進します。

・瀬戸 純代 部主事

昨年度、大好評だった『ドリームプロジェクト』のカップラーメンに続き、今年度も新しい試みにチャレンジしたいです。Instagramでの発信も強化していきます。

・水野 靖弘 副主事

県教育委員会特別支援教育課での勤務を経て現場に戻りました。この１ヶ月で、地域とのつながりの中で子供たちがより良く学んでいることを実感しています。

・米山 朋子 進路指導主事

昨年度も企業や関係機関の皆様には大変お世話になりました。生徒がより良い進路選択ができるよう、専門的な意見をいただきたいです。

6、校内参観 （作業学習 ワーク工房）

7、協議 （司会：福田委員長）

【協議Ⅰ】学校経営計画およびグランドデザインについて

(1) 説明（教頭）

昨年度の学校運営協議会での意見を反映し、今年度のグランドデザインの中核に「生徒一人一人の掛け替えのない夢の実現を応援する」という目標を据えました。夢を持って入学してくる生徒を、学校・地域・家庭が一体となって応援していく体制を目指します。

「安全」…安全の徹底：生徒の成長の基盤として、人権尊重のための「さん付け」の徹底や、自ら命を守る大切さを実感できる教育を推進します。

「専門」…専門性の追求：県の統一様式や AI を活用した目標設定を行いつつ、専門性を駆使して判断します。迅速な意思決定を行うためのフレームワーク「OODA（ウーダ）ループ」を導入し、生徒が自己効力感、自己肯定感を育めるよう支援します。

「連携」…地域連携：「自立と輝き」に向け、地域貢献活動を通じて本校の魅力を発信し、さらなる「応援団」を増やしていきます。

「チーム」…チームとしての学校（働き方改革）：少人数の教職員が一人で抱え込まずチームで対応する組織づくりを行います。また、「完全退庁時刻 19 時 30 分」を具体的に設定し、教員のゆとりと教育の質の向上を両立させます。

(2) 質疑応答

（鈴木委員）

連携の項目にある「面談の在り方の検討」は、具体的にどのような対象や内容を想定していますか？

（米山進路指導主事）

主に在校生およびその保護者を対象とした進路説明会や、実習前の説明会、年度始めの三者面談などを想定しています。また、学校での授業内容が保護者に伝わりにくいという課題があるため、その情報発信の仕方も含めて検討していきます。

（鈴木委員）

チームの目標にある「アサーティブ（相手を尊重しながら適切に自己主張する）」な関係作りについて、具体的にどのように進めますか？

(教頭)

職員同士が穏やかに認め合い、意見交換できる環境（心理的安全性の高い職場）を目指しています。現在はまだ具体的な研修には至っていませんが、今後、外部講師の活用や、職員会議を単なる報告の場ではなく、活発な意見交換の場とする工夫を重ねていきたいと考えています。

(鈴木委員)

企業の立場から見ても、職員間の伝え方や受け止め方（人間関係）の質は非常に重要だと感じます。また、「退庁時刻 19 時 30 分」の設定にはどのような意図がありますか？

(部主事)

教職員は生徒への熱意から、20 時、21 時まで仕事をしてしまいがちです。あえて 19 時 30 分というデッドラインを共有することで、チーム全体で声を掛け合い、業務の効率化を図る意識が芽生えています。

【協議 2】地域のつながりを生かした学習活動について

(1) 説明（部主事）

昨年度に引き続き、地域社会との関わりを深める年間計画を策定しました。

- ・活動内容：作業製品の販売、地元の神社の清掃、沼津高校との合同行事、門池福祉祭りへの参加など、地域の中での活動を増やします。
- ・教育目標：生徒が地域で役割を果たし、周囲の人に喜んでもらうことを各工房（作業学習）の目標として掲げます。地域社会の中で「自分たちは役に立っている」という有能感を育むことが狙いです。

(2) 質疑応答

(福田委員長)

学校の授業内容や地域での活動が一目でわかるような一覧表があるのは、外部からも理解しやすく非常に良いですね。

(教頭)

ありがとうございます。地域の方々に本校を知っていただくため、今後も活動の「見える化」を推進します。

【協議 3】今年度の学校運営協議会について

(1) 説明（教頭）

テーマ：生徒一人一人の夢の実現を応援する

目的：学校・地域・家庭が三位一体となり、生徒が自分らしく社会で生きていくための『応援団（ネットワーク）』を可視化、構築する。

方法：昨年度の実践の深化（質の深まり）、進化（新たな発展）

学校運営協議会：第 2 回（7 月 30 日）では、保護者、ワーク地域先事業所参加型のパネルディスカッションを計画しています。三位一体の深化を目指し、熟議、協働（アクション）していきます。PTA 総会でもアナウンス済みです。

その他の新たな取組：深化…生徒の参加・参画

進化…地域との win-win の関係の可視化

例)・生徒プロジェクト企画：生徒の「やりたい」が叶う学校作り。

- ・生徒による発信：生徒が広報記事を執筆し、居住地公共機関に配布や SNS への投稿。

- ・生徒の対話：ワーク地域や企業による学校見学会等、生徒の声を届ける、対

話を行う。

- ・公認応援隊ステッカー：生徒がデザインしたオリジナルステッカーを協力者に渡し、応援関係の可視化。

(2) 質疑応答

(越前委員)

社会で生き抜くために必要な「働く力・生きる力」の根底には、他者との関わり方があります。障害の有無に関わらず、自分が困っている時に助けを求めたり、周囲と折り合いをつけたりする力が不可欠です。教育課程の中で多様な人々と触れ合い、体感として学ぶことが、共生社会の実現に向けたモデルケースになると期待しています。

【協議 4】第 2 回学校運営協議会について

第 2 回会議の進行方法について、活発な意見交換が行われました。

- ・当初の案：全体でのパネルディスカッション。

- ・委員の懸念：(越前委員)(阿部委員)

「大人数(50～60 名想定)では保護者が本音を話しにくいのではないか」

(駒形委員)

「企業の取り組みに対して、保護者からの要望が『非難』のような形にならないか」といった配慮の必要性

- ・仮案：

第 1 部：全体で各事業所の取り組みや願いを発表・共有する。

第 2 部：小グループ(分科会)に分かれ、聞いた内容を深掘りし、テーマに応じた意見交換を行う。

第 3 部：各グループで出た意見を全体で共有する。

進行役：調整役(モデレーター)は、学校側と運営協議会が協力して務める。

- ・今後に向けて：再度、検討を重ね、計画を決定とする。

8、 閉会